

令和 6 年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立青柳小学校

学校 教育 目標 校訓 「良知に生きる」 学校教育目標 自ら学び 心豊かでたくましい 子どもの育成	昨 年 度 の 評 価 概 要 ○中江藤樹先生の地元であるので、校訓「良知に生きる」を大切にして、藤樹先生の教えを学校教育の中核に据え、これまでの『青柳小学校ならではの行事』のみならず、日常の学校生活の中でも藤樹先生の教えを意識させ、実践につなげられるような取組をしていく。 ○読書活動では、朝読書の定着が進んでいるが、さらに、地元の図書館との連携を図り、ブックトークの継続や図書館訪問を増やしていく。また、家庭での読書習慣の定着を図るために、ＰＴＡとも連携していきたい。 ○「学校・地域連携カリキュラム」には写真を入れてわかりやすく工夫し、地域の支援が必要な取組には「ボランティア募集」の言葉を入れるとよい。もっと地域の人に見てもらえる機会があってもよいし、学校だけで難しいことがあれば、保護者や地域をよい意味で巻き込むとよい。	中 期 的 目 標 めざす子ども像 徳：たがいに思いやる子 知：よく考え実行する子 体：明るく元気な子 めざす学校像 地域とともにある学校
---	---	--

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評価	改善方策	学校関係者評価
○学力の向上 ・「我が校の学力向上策」の改善により学力向上を図る。 ・保護者と学校が連携し、家庭学習や読書の習慣化に取り組む。 ・基礎基本の定着と活用力の向上を図るため、算数科・理科・社会科等の専科指導を充実させる。 ・ＩＣＴ機器の有効活用を図る。	・学力向上策の推進において、学期ごとのＰＤＣＡサイクルで評価、改善を加え実効性のあるものにする。 ・自己肯定感を育む活動(PTA「長所の花を咲かせよう」運動)の継続実践と振り返りを行う。 ・「先生はわからないときに丁寧に教えてくれる」（児童評価90%以上) ・ICT機器の効果的な活用により「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図る。	全国学力・学習状況調査の分析を踏まえた学力向上策を推進している。○ＪＴ等で各学年の取組を交流し授業改善に取り組んでいる。教職員評価では、８５％がPDCAサイクルにより学力向上に取り組んでいると回答している。 児童評価では、「自分には良いところがある」と回答している児童は91％である。この活動だけでなく、日頃から自己肯定感が高まる声掛けを心がけていくようにしたい。 児童の疑問等には個別指導を中心に丁寧に対応することを心掛けた。児童評価結果は99％であった。 授業における学習ツールとして意見交流や学習のまとめで効果的に活用できているが、工夫の余地があると思われる。	B A A B	学力向上推進委員会を中心に、進捗状況の確認と改善方策をさらに検討する。 家庭学習の課題の与え方を工夫し、意欲的に家庭学習に取り組めるようにする。 今後もＰＴＡ研修部からの呼びかけで継続して取組んでいく。自己肯定感が高まる声掛けなどの関わりを意識する 学習のつまずきや疑問については、丁寧に個別対応していく。 研修等で学んだ活用法を職員間で交流し実践に生かす。	・小学生の時から勉強のやり方を身に付けておくことが大切であり、自主学習の習慣も身に付けられると良い。 ・ノートに自分の考えをきちんと書くという活動を大切にしていきたい。特に、入門期である低学年には、読んだり、書いたりする活動を丁寧にしていきたい。 ・書く活動や自分の考えや思いを発表し合う場も大切にしていきたい。 ・タブレットが授業の補助として児童にとって抵抗なく使用されている。機器に使われることなく、機器をうまく利用して学力向上に努力されている。 ・家庭学習が重要である。返却されたテストを親子での見直しやノート点検などを保護者に促してもらえると良いと思う。
○言語活動の充実 ・国語科における言語活動を基盤として各教科での言語活動の充実を図り、思考力、判断力、表現力を育む。 ○読書活動の充実を図る。 ○小中一貫教育の推進 ・小中一貫した道德教育推進のための共同研究を行う。 ・学校や地域の関係者で目指す15歳像を共有して教育活動に取り組む。	・校内研究のテーマ「良知を磨く「考え、議論する道德」の在り方」の研究実践を積み重ねる。 ・授業では、振り返りの時間を中心に「書く活動」を多く取り入れ、「読み解く力」の向上を図る。 ・学校・家庭における読書活動の充実により、読書の楽しさを実感させ、読書習慣の定着を図る。	小中学校の教員が共に、児童の道德性を養う道德授業の研究を進めた。また、中江藤樹にまつわる地域教材も活用して、授業を行った。 各学年、学期に1回、国語科で題材について自分の考えをまとめて表現する活動を必ず行った。 朝読書の定着はできているが、家庭で読書をする習慣がない児童が多い。家や学校でいろいろな本を読んでいる…児童評価87％子どもに読書の習慣が身に付くように努めている。…保護者評価34％ ・中学校の定期テストの時期に、「家庭学習・ふれあい週間」を設け、低学年は親子のふれあい、高学年は自主学習に取り組む。	A B B A	研究したことを共通理解し、次年度以降の道德教育に活かす。 自分の考えを書く活動を行い、添削して書き直し、発表などで他者に伝えることを継続的に行う。 読み聞かせやブックトークの実施や図書館の利用を増やすことで、児童個々に合った本の選定ができるようにする。 「家庭学習・ふれあい週間」を継続的に行い、定着を図っていく。	・道德教育実践推進校として授業に取り組まれ、児童に「心」の大切さが認識されている。タブレットも話し合うためのツールとして有効活用されている。道德の学習の足跡を掲示されているのもよかった。 ・想像力を豊かにする読書活動は、保護者としてありがたい。読んだ本の感想などを貼りだすなどして、読書の雰囲気を高めてもらえると良い。 ・「読書貯金」として、読んだ本の題名などを記入して、読書記録を残すと良い。 ・図書館に出かけたりブックトークを取り入れたり、いろんな分野の本と出会い「読むこと」が楽しくなる工夫がされている。 ・朝読書やPTA「読書カレンダー」など、子どもたちが本に親しめる工夫はとても良い。家庭での読書習慣の評価が低いので、今後、毎週〇曜日に30分ほどの親子読書タイムに取り組んでみてはどうか。
○集団づくり ・けじめのある生活を送ることのできる集団を育成する。 ・周りの子どもたちや大人に対して思いやりの気持ちをもって接することのできる集団を育成する。 ・異学年交流を通して望ましい人間関係の育成とリーダーを育てる。	・いじめ未然防止の日常的取組。生徒指導の情報交換やケース会議等による事案への早期かつ適切な対応を行う。 ・「進んであいさつや返事をしている」（児童評価90%以上) ・あらゆる教育活動を通して、周囲の友達や他学年の友達のことを考え、思いやりの気持ちを育てる。上級生は下級生をいたわり、下級生は上級生に感謝の気持ちを持てるよう指導する。 ・異学年交流や児童会活動の活性化を図る。（たてわり活動、集団登下校、運動会等）	未然防止の取組、生徒指導に係る定期的な報告と情報共有、事案発生時の早期かつ組織対応を引き続き行う。 「おはようございます さようなら」などのあいさつや返事をしている…児童評価97％ 保護者評価85％ 学級活動や道德科の授業を中心に他者を思いやる気持ちや行動について考える機会を多く設定。1年生と6年生と一緒に清掃を行い、6年生は1年生をいたわり、1年生は6年生に感謝の気持ちを持てるようにしている。 たてわり活動や全校的な行事では協力して活動している…児童評価94％各学年単級であることから、さらに異年齢交流を増やすことを検討する余地がある。	A A A A	いじめ未然防止のため、職員の意識を高め些細な出来事も見逃さず、職員間の報告、連絡、相談、記録を徹底する。 PTA、AC等の各種団体と連携したあいさつ運動を推進する 道德教育、人権教育を柱とした心の教育を大切にしてい。今後も1年生と6年生と一緒に清掃を行う。 藤樹デーや運動会以外にも、たてわり班で活動できる場を工夫する。	・「おはよう」「こんにちは」集団登下校時の挨拶は気持ちが良い。「あいさつ運動」は引き続いて取組をお願いしたい。来校時に、挨拶を返してくれる子が多い。 ・登校では、上級生が先頭で下級生に気を配りながら登校していた。 ・小規模校であり、児童全員に目配りをし、いじめの未然防止対策を熱心に行っておられるので、今後も引き続き行っていたきたい。 ・たてわり活動、1、6年ペアの掃除、運動会等を通して、上学年と下学年が良い関係で学校生活を送れている。 ・児童はACなどの地域行事をとても楽しみにしているので、引き続き地域と連携した行事に取り組んでいただきたい。
○藤樹学習を中心とした地域連携 ・中江藤樹の教えを学ぶ機会や地域の文化や伝統を取り入れた学習を取り入れる。 ・PTAやAC（青柳コミュニティ）、地域学校協働本部との連携を深める。	・「藤樹デー」や「大洲小学校との交歓会」、「立志祭」、「創立150周年事業」等、青柳小ならではの取組の充実。 ・「学校では藤樹先生に關係する勉強をやっている」（児童評価90%以上) ・学校運営協議会での熟議を通して、目指す子ども像の実現に向け地域学校協働活動の充実を図る。 ・学校運営協議会、PTA、AC（青柳コミュニティ）、地域学校協働本部等と連携した取組を行う。	「藤樹デー」や「大洲小との交歓会」「立志祭」は藤樹先生の教えを学ぶ伝統行事として実施でき、児童も達成感を感じている。 総合的な学習の時間を中心に、学年の発達段階に合わせて実施。地域人材の活用による学習も進んでいる。(児童評価100%) 学校運営協議会での熟議を重ねるごとに、地域学校協働活動が充実してきた。学校の現状を知っていただく機会にもなっている。 保護者や地域ボランティアによるきめ細かな支援により、充実した教育活動が行えた。学校地域連携カリキュラムを年度末に更新していきたい。	A A A A	藤樹先生の教えを学ぶ伝統行事として継続・発展させていく。 藤樹先生の教えを道德科や総合的な学習の時間に地域教材として積極的に取り入れる。 今後も協議会での熟議を行い、地域連携の取組充実を図る。 学校地域連携カリキュラムの更新と保護者ボランティアの発掘を行う。	・中江藤樹生誕の地にある小学校として、様々な取組がされており、心強い思いである。学んだことを一生生涯活かしてほしい。 ・藤樹デーや大洲小との交流会など、青柳小ならではの学習はとても良いので継続していただきたい。 ・普段の生活の中で中江藤樹の教えを意識できるように、「五事を正す」「貌、言、視、聴、思」を低学年でもわかる言葉で示してはどうか（例えば児童会テーマなど合言葉をみんなで考える）。 ・わくわくタイムでは、地域の方の長けた技術を披露していただき、子どもたちにいろんな活動に取り組んでもらえて良かった。

	総 評	評価	学校関係者評価を踏まえての改善点
学校 関係 者 評価	・学校地域連携カリキュラムは、コンパクトに学校の1年間の活動が凝縮された広報活動紙である。行事紹介や行事の写真も多く挿入され見やすい。また、地域掲示板での掲示や児童の自筆によるチラシで「掃除の日」の広報ができ、多くの保護者や地域の方の参加による「きれいな学校」づくりに取り組むことができていると思う。 ・中江藤樹生誕の地にある小学校として様々な取組がされており、藤樹先生の教えを学んでいる。テレビ会議システムでの大洲小学校との交歓会など『青柳小学校ならではの行事』に引き続き取り組んでいただきたい。 ・創立150周年事業では、学校全体がー丸となって劇や合唱などに取り組んでいただき、地域の人など多くの方が楽しめました。また、漫画家古本ゆうやさんの記念講演では、「夢を叶える努力の大切さ」を感じ、楽しませてもらいました。大変ご苦労様でした。ありがとうございました。 ・校内の先生方と意見を交わしながら学校地域連携カリキュラムの見直しができ、より良いものへと改訂していったことが良かった。保護者を中心に、さらに地域の方へ活動の輪を広げていけるよう今後も工夫していきたい。 ・文部科学省の「道德教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」の推進校として、中江藤樹にまつわる教材を通して、道德規範の学習に取り組まれました。今後も道德教育の研究に取り組んでいただきたい。 ・学校教育目標の具現化に向けて、「良知に生きる」を大切にしながら教育活動が行われている。読書の継続、書くことの充実を全校的に進めつつ、リーダーの育成を踏まえた集団づくりを行っていただきたい。	B	・藤樹先生の教えを学校教育の中核に据え、これまでの『青柳小学校ならではの行事』のみならず、日常の学校生活の中でも藤樹先生の教えを意識させ、実践につなげられるような取組をしていく。また、道德科や総合的な学習の授業でも中江藤樹の教材活用について研究していく。 ・文部科学省の「道德教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」の推進校として、中江藤樹にまつわる教材を通して、道德規範の学習に取り組んだことを活かし、今後も道德教育の研究に取り組んでいただきたい。 ・読書活動については、朝読書を継続し、読書記録を残すことを検討していく。地元の図書館との連携を図り、ブックトークの継続や図書館訪問を増やしていく。また、家庭での読書習慣の定着を図るために、PTA研修部主催の「読書カレンダー」に加えて、定期的に30分ほどの「親子読書タイム」のような取組を設定するなど、家庭と連携した取組も検討していきたい。 ・次年度以降も「学校地域連携カリキュラム」に基づく地域学校協働活動の更なる見直しを図り、カリキュラムを「地域とともにある学校づくり」の重要なツールとして保護者や地域に広報し、協働活動の充実を図っていく。今後は、現在支援してくださっている地域ボランティアだけでなく、保護者に教育活動への参加を呼び掛け、ボランティアを増やしていく。協働活動がボランティアや学校職員にも過度な負担にならないよう、持続可能な活動として定着できるように留意したい。 ・職員同士の同僚性が高く、児童や保護者、地域から信頼を得られる学校づくりに努めてきた。いじめ未然防止の日々の取組など今後も引き続き丁寧に行っていきたい。

4段階評価（A 目標を十分に達成 B ほぼ目標を達成 C やや不十分 D 改善を要する）